

令和七年八月号

《第百五十二号》

しらへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

葉月の祭典・行事案内



【月次祭】 九時半より

四日(月)

二十八日(木) 己巳

【大掃除】

三日(日) 午後五時

【白蛇供養祭】 ※ 保存会主催

十六日(土) 十時

案内状送付の方のみ

【昭和天皇御製】(第一二四代)

「相撲」

久しくも見ざりし相撲ひとびとと

手をたたきつつ見るがたのしさ

「八月十五日那須にて」

夢さめて旅寝の床に十とせてふ昔思へば
胸せまりくる

(昭和三十年)



【岩国護国神社みたままつり】

戦後八十年の節目の年であり、昨今の不穏な世界情勢を見聞きするなか、今の平和の有難さを痛感すると共に、先の大戦で犠牲になられた三千三十三柱の英霊に対し、今こそ感謝と平和の祈りを捧げなければと思ひます。

岩国市民の守り神として鎮座する護国神社に感謝の誠を捧げませんか。

八月五日(火)
午前十時から祭典
が行はれます。

また、都合により
参列できない方は、
献灯ができます。
一灯二千元で、
当社でも受付して
ります。

【推薦図書】

『戦前の日本人』

武田知弘 著

「一〇〇年前の意外に豊かな国民生活、給料、娯楽、恋愛」
宝島社新書 発行
千百円

「本書は、戦前（戦争が始まる前の昭和初期あたり）の日本人の生活を書いたものである。戦前の日本という、貧しくて暗い時代というイメージが強い。その一方で戦前は素晴らしい時代だったと称賛する人もいる。筆者はなるべくそういう先入観を捨てて、なるべく具体的な戦前の日本人の姿を描きたいと思っている。戦前といえども日本人の考え方や社会の性質には、今も昔も似たようなものがある。日本人は昔からミーハーだった。猟奇事件を起こした安倍定は、その美貌と品の良さからたちまち国民的アイドルとなり、求婚が殺到したり、忠犬ハチ公は存命中から人気者になり銅像までつくられた。日本は議會を設置したのも、普通選挙を実施したのも、世界の民の早さであり、見方によっては最先端の民主主義国家だったといえる。・・・」
(はじめにより)

戦前の日本人

100年前の意外に豊かな国民生活、給料、娯楽、恋愛

武田知弘

森永康平氏

経済アナリスト

推薦!

あえていま
100年前の日本社会を
学びなおす理由がある

SSの驚き
エピソード

●実は最先端の民主主義国家だった!
●サッカーもオリンピックでベスト8に!
●庶民が普通にオペラを楽しんでいた!
●サラリーマンは若い娘の憧れの的!
●事実上、先帝は公認されていた!

TJ 宝島社新書

〔神社崇敬会役員会〕 於・社務所2階

七月五日（土）午前十時より出席者七名による白蛇神社崇敬会役員会が行はれました。森橋会長挨拶の後、令和六年度の会計報告が事務局から、そして、会計監査から監査結果の報告がありました。

そして、本会の主な議題である今年度の神社への寄進について協議が行はれました。今年が巳年で、昭和百年にあたり、また、戦後八十年であり、そして、日露戦争戦勝百二十年の節目の年になります。そのことをふまへ神社境内に相応しく、神社神道の教化的なもので、また、昨今の日本社会や世界情勢も鑑み、具体的なことも提案されましたが、結論は出ませんでした。ただ、記念となる巳年を表記した石碑が望ましいとの意見が出され、後日に結論が持ち越されました。



本居宣長の

『直毘霊』を読む（四）

神代も今も隔てなく、ただ天津日嗣の然坐しますのみならず、臣・連・八十伴の緒爾至るまで、氏姓を重みして、子孫の八十続き、その家家の職業を承け継がいつつ、祖神たちに異ならず。只一世の如くにして、神代のままに奉仕れり。

【現代語訳】

神代も今も差がなく、ただ天の後継者としての天皇だけがさうであらうしやるだけでなく、臣や連や八十伴の緒（部民）に至るまで、氏と姓とを重んじて、子孫の多くの後継者はその家々の職業を受け継ぎして、先祖の神様方と違ひはない。ただ一世代のやうであつて、神代の通りにお仕へ申し上げてゐる。

本居宣長（もとおり のりなが）の紹介（三）

宣長没後の弟子に平田篤胤あます。宣長の師匠である賀茂真淵、その師匠が荷田春満で、以上を江戸の四大国学者と言ひます。荷田春満に大きな影響を与へたのは僧の契沖です。契沖の「万葉代匠記」は「万葉集」研究の礎となります。その契沖に大きな影響を与へたのは、あの徳川家康の孫である徳川光圀です。水戸の黄門様です。「大日本史」の編纂を指示し、「万葉集」の研究を委ねたのは下河辺長流でしたが、その長流が病に倒れたため、契沖が長流に代はつて「万葉代匠記」を表したのです。その「万葉集」の研究を四大国学者が引継ぎ発展させました。そして、宣長の「古事記伝」に繋がるのです。



（続く）
《宣長旧宅の二階にある書斎「鈴屋」の写真》

【通化寺に安倍元首相を偲ぶ】

あの忌まわしいテロの銃撃により命を奪はれた安倍元首相逝きてこの七月八日で三年が経ちました。最近の内外の政治情勢をみるに安倍元首相の存在を思はざるを得ません。



らにしばし安倍元首相を偲びました。

この通化寺は、幕末に倒幕に多大な貢献をした奇兵隊の本陣が置かれてゐました。創設者である高杉晋作がこの本陣に激励の詩を贈った石碑があり、その案内の碑に安倍元首相が墨書したのでした。また、その近くには祖父である第五六・五七代首相の岸信介の漢詩の石碑もあります。



今は、夏草に覆われてゐますが、八百七年（大同2年）に創建されたとされる黄檗宗の古刹です。

